

<b>会議名</b>	令和6年度第1回板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会
<b>開催日時</b>	令和6年8月1日（木）午後2時00分～4時00分
<b>開催場所</b>	板橋区役所 南館4階 災害対策本部室
<b>出席者</b>	<p><b>[委員 14名]（敬称略）</b></p> <p>八藤後会長、水村会長代理、桑波田委員、佐々木宗雅委員、越智委員、山口委員、マーシャル委員、坂東委員、石川委員、渡辺委員、木村委員、村山美和委員、島田委員、佐々木敦司委員（欠席4名）</p> <p><b>[事務局 6名]</b></p> <p>（福祉部）丸山福祉部長、小田障がい政策課長、ユニバーサルデザイン推進係2名、管理係1名</p> <p><b>[オブザーバー 1名]</b></p> <p>（都市整備部）都市計画課都市計画係 1名</p>
<b>会議の公開 （傍聴）</b>	公開 （傍聴できる）
<b>傍聴者数</b>	3名
<b>次 第</b>	<p><b>1 第12期板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会委員 委嘱状伝達式</b></p> <p>（1）委嘱状伝達</p> <p>（2）区長あいさつ</p> <p><b>2 令和6年度第1回（第66回）板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会</b></p> <p>（1）委員紹介等</p> <p>（2）会長選出</p> <p>（3）議題</p> <p>ユニバーサルデザインに関する区民アンケート調査内容について</p> <p><b>3 その他</b></p> <p>板橋グリーンカレッジにおける普及啓発事業の実施について</p>
<b>配付資料</b>	<p>次第</p> <p>資料1 第12期板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会委員名簿</p>

	<p>資料 2 東京都板橋区ユニバーサルデザイン推進条例</p> <p>資料 3 東京都板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会規則</p> <p>資料 4 次期ユニバーサルデザイン推進計画策定に係る区民アンケート調査の実施について</p> <p>資料 5 ユニバーサルデザインに関する区民アンケート調査票(案)</p> <p>資料 6 板橋グリーンカレッジにおける普及啓発事業の実施について</p> <p>参考 1 座席表</p>
<p><b>審議状況</b></p>	<p><b>1 第 12 期板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会委員 委嘱状伝達式</b></p> <p><b>(1) 委嘱状伝達</b></p> <p>〈事務局〉</p> <p>定刻になりましたので、ただいまから、第12期板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会委員の委嘱式を始めさせていただきます。</p> <p>なお、会長が選任されるまでは、板橋区障がい政策課長の小田が進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>はじめに、坂本健板橋区長から、各委員の皆様へ委嘱状をお渡しいたします。委員の皆様におかれましては、自席にてお待ちください。 (区長から各委員に委嘱状を交付)</p> <p><b>(2) 区長あいさつ</b></p> <p>〈区長あいさつ 内容〉</p> <p>皆様、本日は大変お忙しい中、板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>また、このたびは、委員へのご就任をご快諾いただきまして、心より御礼を申し上げます。ユニバーサルデザインは、年齢、性別、国籍、個人の能力にかかわらず、すべての人が快適にらせるまちづくり、様々な場面で社会参加ができる環境を築くための重要な指針であり、板橋区にとっても欠かせない理念です。</p> <p>板橋区では、すべての人にとってくらしやすい地域社会の実現をめざし、平成 28 年度に「板橋区ユニバーサルデザイン推進計画 2025」を策定しました。同計画で掲げた将来像の「もてなしの心を大切に、</p>

すべての人が心地よさを描けるまち「いたばし」の実現に向け、ユニバーサルデザインの理念を取り入れた公共施設整備、情報発信、区民サービスの提供、そして認知度や理解を深める普及啓発活動など全庁を挙げて各施策に取り組んでおります。

また、板橋区は、令和4年5月に、国の「SDGs未来都市」に選定されました。「SDGs未来都市」として、ユニバーサルデザインと親和性の高い「誰一人残さない」というSDGsの理念をもとに、新しい技術や価値を取り入れながら、未来へ継承し続けるまちの実現に向けた取組を展開しています。

一方で、私たちの生活や経済に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症の流行や、今年元日に発生した能登半島地震など、先行きは不透明で将来の予測が困難な時代となってきております。こうした時代の中、誰一人取り残さない持続可能で包括的な社会をめざすためには、ユニバーサルデザインの理念の重要性を改めて認識しているところでございます。

このたび、現計画の満了に伴い、新たなユニバーサルデザイン推進計画の策定に着手します。本協議会には、専門的な知見や豊富なご経験をお持ちの有識者の方、地域活動にご尽力いただいている方、日頃から区政に対するご関心をお持ちの方、事業者・行政関係の方など、様々な分野の第一線でご活躍されている方にお集まりいただいております。

10年後の板橋区のユニバーサルデザインを体現する計画の策定に向け、皆様におかれましては、忌憚のないご意見やご助言とともに、様々な視点からご審議を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、私からの挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

(区長退席)

## **2 令和6年度第1回(第66回)板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会**

### **(1) 委員紹介等**

〈事務局〉

続きまして、令和6年度第1回板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会を開催させていただきます。会長が選任されるまで、引き続き私が進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の協議会は、村山知之委員、山本委員、堀井委員、杉山委員から、所用によりご欠席とのご連絡をいただいております。また、1名、到着が遅れている委員もいらっしゃいますが、委員の18名のうち半数以上の委員がご出席していただいておりますので、東京都板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会規則第3条第2項の規定により、本協議会が有効に成立していることをご報告申し上げます。

まず、今回、資料の確認をさせていただければと思います。

(次第に沿って、資料確認)

次に、協議会委員改選後、本日が初めての協議会になります。委員にご就任いただきました皆様のご紹介をさせていただきたいと思います。本日の座席の並びに沿ってお名前をお呼びいたします。座ったままで結構ですので、一言ずつごあいさつをいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(委員紹介、あいさつ)

(オブザーバー・事務局紹介、あいさつ)

続きまして、本協議会について、ご説明をさせていただきたいと思っております。

資料2の東京都板橋区ユニバーサルデザイン推進条例をご覧ください。

本協議会は、この条例の第10条に基づいて設置された区長の付属機関となっております。また、本協議会は、この条例の第1条に規定する、すべての区民が基本的人権を尊重され、あらゆる場面で社会参加できるよう、区、区民、事業者及び地域活動団体のそれぞれの責務を明らかにし、それぞれが協働することにより、ユニバーサルデザインの総合的な推進に寄与するという目的を達成するために設置されているものでございます。

具体的な審議事項としましては、10条の第2項に列記しておりますとおり、ユニバーサルデザイン推進計画に関する事項や区民や事業者等へのユニバーサルデザインの推進に関する意識啓発に関する事項などでございます。

本協議会では、このような事項についてご審議いただく予定でございますので、委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

## (2) 会長選出

次に、次第の2、(2)協議会の会長の選出に移らせていただきます

す。

資料3、板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会規則をご覧ください。  
この規則の第2条第1項の規定により、会長は委員の互選によるものと  
されております。どなたか会長のご推薦をいただけますでしょうか。

〈委員〉

八藤後委員をお願いしてはいかがでしょうか。

〈事務局〉

ただいま八藤後委員へのご推薦がございましたが、皆様、いかがでし  
ょうか。よろしいでしょうか。

(異議なし)

〈事務局〉

ありがとうございます。それでは、八藤後委員を会長に決定させてい  
ただきたいと思っております。八藤後委員には会長席の方へお移りいただけ  
ばと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

早速ではございますが、八藤後会長にご挨拶をお願いしたいと思いま  
す。よろしくお願いいたします。

(八藤後会長あいさつ)

〈事務局〉

どうもありがとうございました。続きまして、会長に事故があるとき  
の代理ですが、資料3の、先ほどの協議会規則の第2条第3項におきま  
して、会長が指名することとなっております。八藤後会長、どなたをご  
指名いたしますでしょうか。

〈会長〉

事故がないようにしたいとは思いますが、前回同様に水村委員にやっ  
ていただくと私は非常に心強いんですが、いかがでしょうか。

〈事務局〉

ありがとうございます。八藤後会長から水村委員をご指名いただきま  
した。水村委員に、会長に事故があるときの代理をお願いしたいと思いま  
す。こちらも早速で申し訳ないのですが、水村委員にもご挨拶をお願  
いしたいと思っております。

(水村会長代理あいさつ)

〈事務局〉

ありがとうございました。以上で、会長及び会長に事故があるときの  
代理が決定し、第12期板橋区のユニバーサルデザイン推進協議会の体制  
が整いました。

これからの協議会の議事進行を八藤後会長をお願いしたいと思いま  
す。八藤後会長、どうぞよろしくお願いいたします。

〈会長〉

では、早速始めさせていただきたいと思っております。

ではまず、本日の会議の傍聴について、事務局から説明をお願いいたします。

〈事務局〉

本日は3名の方が傍聴されております。また、議事録作成のため、審議内容を録音いたしますので、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

なお、本協議会の記録やホームページでの公開などに活用するため、会場全体が収まる構図で写真を撮らせていただきたいと思います。委員の皆様のお顔が分からないように配慮いたしますので、ご了承いただければと思います。

〈会長〉

ありがとうございました。それでは、審議に入る前に出席者の皆様へご協力いただきたいことが2点ございます。

まず、発言する際は、手話通訳などを必要としている方もいらっしゃいますので、なるべくゆっくりと分かりやすい言葉でご発言いただくようお願いいたします。

また、ご発言の前にはお名前を名乗っていただきますようお願いいたします。

### **(3) 議題**

#### **ユニバーサルデザインに関する区民アンケート調査内容について**

(事務局から、資料4・5に基づいて説明)

〈会長〉

ありがとうございました。ご意見や質問が出しやすいように、まず私の方から最初に事務局に幾つか伺っておきたいことがあります。よろしいでしょうか。

まず、前回のアンケートと今回のアンケートと違いがあると思うんですが、どのような点を変えたのかというのが一つでございます。

では、まずはそこからお願いいたします。

〈事務局〉

まず回答方法に関しましては、郵送だけだったのをウェブでも回答いただけるように変えたところでございます。

質問の中身としましては、まず、回答者自身のところ、前回だと「男性」「女性」という選択肢だけだったところに「どちらともいえない」という選択肢を追加させていただいております。

あと、世帯構成に関しましては、前は「夫婦」というような書き方だったんですけれども、今回は「配偶者、またはパートナー」というような形の表記にさせていただいております。

また、ユニバーサルデザインを知ったきっかけについて、今回は前回

になかったSNSというところで知ったというのも追加させていただいております。

そのほか、設問として、ユニバーサルデザインの推進に向けてという項目の部分で、「10年前に比べてユニバーサルデザインは進んでいるか、取組は進んだか」という設問を追加させていただいております。

あとは、特に今回力を入れた方がいいものという設問について、前はハード面とソフト面に分けて聞いていたのですが、今回はそういった分け方をしないで、全体的に本当に必要なのがどこというふうを考えているかというのを伺いするような形で、ハード面、ソフト面を分けないような形の設問内容に変えさせていただいているところでございます。大まかなところは、こういったところでございます。

〈会長〉

ありがとうございます。もう一つ聞かせてください。問11「10年前と比べて、あなたの生活の中でユニバーサルデザインの取組は進んでいると思いますか」という設問と、問12「具体的にどんなことで感じますか。」この問12と次の問13の今後のユニバーサルデザインの推進に向け、「特に力を入れたほうがよいもの」はどれですかということですが、この二つの設問の違いというのはどこなんでしょうか。

〈事務局〉

問12の方は、実際に、今現在でユニバーサルデザインが本当にここはよくなったなと思うようなところを聞く設問という形でありまして、この次の問13のところは、よくなっているかもしれないんですけども、さらに力を入れた方がいい、もしくはこの辺がよくなっていないので力を入れて進めてほしいというようなところを答えていただく設問の意図というふうにはなっております。

〈会長〉

ありがとうございます。聞き方が悪くて申し訳ありません。片方は13個、片方は14個の設問があるんですが、どこが違っているんでしょうか。

〈事務局〉

問13の方の選択肢の13の「誰一人取り残さないための災害時・緊急時の備え」というのを、これから力を入れた方がいいところにはちょっと追加させていただいているところでございます。

〈会長〉

ありがとうございます。問12では、あえてそれは抜かしたということですね。

ということで、これから皆さん方に質問でも結構です。それからご意見、別にどちらが先ということはありませんので、どうぞご発言いただければと思います。

〈委員〉

とても分かりやすいアンケート調査の作成、ありがとうございます。

1点、質問。2点、意見、させていただきたいと思います。

まず、1点目の質問です。資料5の1ページ目の真ん中に「なお、回答したくない設問はご回答いただかなくても構いません」とありますけれども、これをパソコンやスマートフォンで読んでいくと、そこを読み込まないと、回答しないと次に進めないという、そういったシステムのものもあるかと思います。例えば、問1とか問2とか、答えたくなかったとしたら、その年齢のところを何も答えなくて問3に進んでもエラーにならないのでしょうか。

次、2点目なんですけれども、4ページになります。4ページの間10「ユニバーサルデザイン」という言葉からイメージできること、という設問についてです。1項目から9項目までございまして、これを、次のページの間12と比べたときに、間12の方には、6番に「目的地までスムーズに移動できるようにするための公共交通機関や道路などの整備が進んだと思うから」という選択肢がありまして、間10には「公共交通機関」という言葉はありません。我が家はユニバーサルデザインを知って、公共交通機関の使い方がすごくよくなったので、こちらにも「公共交通機関が誰にとっても使いやすい」というのをぜひ入れていただきたいなと思いました。

3点目です。一番最後のページの6ページ、「これで終わりです。調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。」とありまして、その下にスペースがあるんですね。こういったアンケート調査が、他の自治体でも例がありますが、ありがとうという気持ちで、インセンティブとして、プチ情報を載せていることがございます。例えば、「板橋区では子供から大人まで気軽に楽しめるように間違い探し形式のパンフレット、まちのなかで気づくかな？を作成しました。パンフレットは以下からご覧いただけます。」という形で、ここ一番下にQRコード等をつけて、すぐに見られるようにできると、最後までアンケートに回答してどっと疲れた区民の皆様が、よかったと思うと思います。そういった形でおまけがあるといいのではないかなと、これを読んでいて思いました。私の子どもが受けた学校の出前授業でも、こちらの冊子が使われていてですね、この冊子が小学校の出前授業でとても人気でございます。これをせっかくなので、こちらに載せるとよいのではないかなと、思いました。以上でございます。

〈会長〉

大変貴重な意見、ありがとうございます。今、一つの質問と二つのご提案がありましたけれども、事務局の方、いかがでしょうか。

〈事務局〉

ご質問とご意見、ありがとうございます。

まず、ウェブ上で答えたくないときに入れないとエラーになるかというところなんですけれども、そちらはエラーにならないような形、ウェブでも答えたくないものは答えなくて飛ばせるような形を今考えております。

いただいたご意見のうち一つ目についてですが、公共交通機関でスムーズにというのが問12には入っているけれども、問10にないという件です。こちらの意図としては、選択肢の4番目「誰でも自由に外出できる」というところに公共交通機関も含まれると意図していたんですけれども、例えばそこで「公共交通機関などを使って」と文言として入れた方がいいかどうかというのは検討させていただければと思います。

もう一ついただきました意見、一番最後の余白のところに、「まちなかで気づくかな？」のパンフレット等の情報提供を二次元コードで対応してはどうか、ということについてです。ご提案ありがとうございます、可能な限りやってみたいと思います。できる範囲になってしまうかもしれないんですけれども、なるべくそういったものも入れられればと思っています。

〈会長〉

ありがとうございます。ただいまの回答では、公共交通機関云々というところについては、検討するというぐらいのお返事なんですけど、いかがでしょうか。それでよろしいのでしょうか。それとも強く求めるということであれば、そのように申し上げた方がよろしいのではないかと思います。

〈委員〉

先ほど、事務局の方から、括弧で公共交通機関という言葉を入れるかどうか、前向きに検討いただけるようでしたので、そのワードが入ればいいのかなど、思っております。ありがとうございます。

〈会長〉

ありがとうございます。では、引き続き。

〈委員〉

まず、資料4の5ページ目にある、「さまざまな区民の意見を踏まえて施設整備できる仕組みを整える」とありますが、これは私の勉強不足かもしれないんですけれども、区民の意見を聞くためのプラットフォームというのはどういったものがあるのでしょうか。

それから、資料5のアンケートの最後の問13、「今後の推進に向けて～」という設問についてです。私自身、福祉住環境コーディネーターの資格も持っていて、そして父は障がい者で車椅子生活をしているという状況です。その中で、実際に父を介護していて生活の中で不便だなと思うことというのは、勉強したこととは全く違っています。ユニバーサル

デザインはどんな方も対象ということですが、例えばお子様連れの方が不便とされていることと、車椅子の方が不便とされていることと、普通に歩いていて不便と思うことと、自転車に乗っていて不便と思うこと、みんなそれぞれ違うと思うので、そういう色々な意見を集めるプラットフォーム等を作らないと、普通に歩いている方が不便と思うことの意味というのはなかなか集まってこないと思うんです。このアンケート自体、本当に区民のほんの一部の方にしか行っていないと思いますが、でも、このアンケートをきっかけでユニバーサルデザインという言葉を知ったという方が半分ぐらいいらっしゃるので、例えば「ふだんの生活で具体的に何か変えてほしいと思うようなことはありますか」といった設問を作ると、そういった具体的な意見を聞くきっかけにもなるのではないかと思います。

〈会長〉

では、事務局の方でご回答お願いいたします。

〈事務局〉

意見を聞くプラットフォームについてですが、当然、このアンケート調査もそうですし、このアンケート調査以外でも区で色々な調査、アンケートを取っていたりするので、そういったところで意見をいただいたり、また、ホームページから直接ご意見をいただける場所があったり、イベント等でご意見を伺う機会もあります。ただし、恒常的になると、ホームページ等となってしまうかと思います。その意見を聞く方向についても、こういった方法があるのかとか、もっと皆さんから意見が集めやすいような体制というのは、常に考えていかなければいけないと思っております。

あとは、この計画を作るときには、パブリックコメントとか、皆さんから意見を聞くというのがありますが、なかなか敷居が高いと思われる方もいらっしゃるかと思います。ご意見をどうやって聞いた方がいいかというのは、本当に色々な年代の色々な幅広い方に聞かなければいけないと思っているので、そこは日々研究を進めていかなければいけないかなと思っております。

次に「具体的にここを改善した方がいい」というご意見についても、いただけるのは非常にありがたいと思うところと、その反面、設問数が多くなり過ぎてしまうと、今度はなかなか回答してもらえないという事情もあります。ただ、今ご意見をいただいて、例えば自由意見で書きやすいように、設問の書き方を考えてみようかなと考えたところがございます。

〈会長〉

いかがでしょうか、今のご回答で。

〈委員〉

具体的な意見については、例えば自由意見欄で、「具体的な意見でも結構です」という形で書けるといいかなと思います。本当に、車椅子で人もすれ違えなくて、ずっとバックして戻らなければいけないところもありますし、不便なところはまだまだたくさんあるので、そういう具体的な住所とかが分かって、直せるのであればぜひ直していただきたいなと思います。

〈会長〉

ありがとうございます。ということで、そうした要望などもどうぞお書きくださいというようなことで、最後のところに置いていただければと思いますが、ちょっと気になったんですが、あまりにも具体的過ぎると、そちらに引っ張られて、そういうことばかり書かれる可能性があるので、あまり具体的にしない方がいいのかな、と。これは私からの一言でございます。

では、次に行きたいと思います。

〈委員〉

2点、質問のような、念を押すような内容です。

1つ目は、アンケートの内容と結果との関連、もう一つが障害者週間記念行事との関連でお聞きします。

まずアンケート調査の結果についてですが、このアンケート概要を見ておまして、6番か7番辺りのユニバーサルデザインに関する意識とか認識の内容等の設問が続いていますが、障がい者の方と障がいを持っていない方との基本的な認識は違うので、この統計結果の内容について、障がい属性と回答内容を掛け合わせて分析していただければありがたいと思います。そうしないと、障がい属性のある方に対してこんなことを言ってもしょうがないなということもあるし、全く障がいのない方に関しては、それは全く正論だということもありますので。

あと、このアンケート結果について、私の認識が不足しているかと思いますが、今言ったような、障がい属性とユニバーサルデザインに関する意識とか認識についての、属性ごとの分析というのが既に出されておられれば、それはそれでいいかなと思います。

もう1つは、障害者週間記念行事のときに、せっかくこういうアンケートがあるんでしたら、そこの来客者に調査してはいいのかなと思います。多分、そういう記念行事に来るような人は結構意識があるかなと思いますので、これも今までやっていたらやっていますよと言っただけであれば、それで結構です。この2点、お願いしたいなと思っております。よろしく申し上げます。

〈会長〉

事務局の方、いかがでしょうか。

〈事務局〉

ご質問ありがとうございます。まず、調査結果、やはり属性が違うと傾向も変わってくるというところがあるかと思います。

前回も同様でしたが、本人や世帯の状況で障がいのある方という選択肢がありますので、その選択肢にチェックした方と、そうじゃない方を分けて、クロス集計することは可能かと思いますので、そういったところをしっかりと分析していきたいと思います。

他の調査では、障がいの有無で調査を分けている調査もありますが、ユニバーサルデザインの調査については、クロス集計をしたものを資料としてお出ししていないと思いますので、今回、せっかくできるというところだと思いますので、そういったところも考えながら、分析を進めていきたいと思います。

もう一つの障害者週間記念行事についてですが、やはり興味を持っていただける方、意識の高い方もいっぱい来ていただけると思うので、何かしら来ていただいた方にもご意見をいただけるようにしたいと思います。先ほどワークショップのときに付箋に意見を書いて貼ってもらうとかという話もしたかと思います。そういった形になるか、それともこのアンケート調査をそのまま使うかはまだ検討中ですが、何からご意見をもらえるようにしていきたいと思います。ありがとうございます。

〈会長〉

よろしいでしょうか。

〈委員〉

分かりました。ぜひ、特に調査結果はクロス集計をお願いしたいし、障害者週間記念行事では、ワークショップの延長でも結構ですから、何かぜひこの行事自体を活用していただければ、我々も助かります。よろしくお願いします。

〈会長〉

ありがとうございます。イベントの来場者というのは、ある意味、色々なことがお分かりになっている方だと思いますので、やはり興味はあるんですけども、このアンケートの3,000人の集計結果とは別集計で、混ざらないようにはした方がよろしいかなと思います。

〈委員〉

前回の結果と、これからのアンケートを見させていただきまして、結果を見ると、やはり20代、30代は少ないなという印象があります。あとは要介護とか、障がいに全く該当しない方も多いなという印象でした。普通の何も持っていらっしやらない方たちとか、若い人たちもたくさんこのアンケートに答えているのを考えますと、今回のアンケートの中身で、11番から13番の設問がかなりざっくりしているがために、意識の高くない方たちはこの1個1個の文章から読み取れずに、実際は見たこと

があっても、「分からない」とか、「あまり思わない」と丸がついてしまうことが多いのではないかなと思いました。確かに細かい事例を見てしまうと引っ張られてしまうものもあるので、難しいかなとも思いますけれども、私自身、区の色々な部署の方たちとお話しする機会が多くて、例えば、「公園でこういうの無いですよ」とか、何か色々ご意見を言わせていただいたときに、「こういうことがされているんです」と解説をされて、「あっそうだったんですね」という理解が進んで、印象が変わることも多くありました。なので、事例が全くない状態で、全く普段の生活で意識しない方たちがこれを見たときに、そこをきちんと読み取って、「あのことかな」と、きちんとそこにピンと来て答えるのもなかなか難しいのかなと。もしかしたら、もう少し具体例もあると、もう少し具体的な皆さんの考えとか、今の意識がどのぐらい向いているかが分かるのかなと思いました。そのバランスが難しいかなと思うんですけれども。

選択肢の4番とか5番は、括弧でこういう印刷物や案内板、ホームページなどとか、手順のオンライン化、気配りのある対応という、ちょっと例を出していただいているので、まだ分かるかなと思いますが、それ以外の選択肢7番とか8番の、「整備が進んだと思う」という具体性のない書き方ですと、ビフォーもあまり皆さん分かっていないですし、アフターもなかなか見れているように見れていない方もいらっしゃると思います。それが、具体例があれば「ここが進んだ」と思う方もいます。より詳細な意見を聞いたら、具体例があった方がよいのではないかなと思いました。

実際に私も育児女性の方たちに意見を聞くときはかなり詳細に、理解をしていただいた上で聞くようにはしています。もし、本当に何も知らない方たちに、何のバイアスもかけずに聞くというのが最大の目的でしたら、これでいいのかなとは思いますが、ちょっと気になりました。

あと3番の区職員のユニバーサルデザインの意識が向上したと思うというのは、どういう機会に区職員の方たちの意識が分かるんだろうとふと疑問に思っていて、どういう意図でこれ質問に挙げていただいているのか、ちょっとこれは最後にお聞きしたいなと思っています。

〈会長〉

では、事務局の方でお願いします。

〈事務局〉

具体的などころ、どこまで入れるかというのは、おっしゃるとおりバランスも含めて本当に難しいところです。選択肢も今回多いので、一つの選択肢が長くなるとなかなか読んでいただけないというところもあって、その辺のバランスも見ながら、どうしていった方がいいかというところ

ころは、誘導にならないようにしたいというところもあるので、そこを踏まえて、どうするかもう一度検討はしたいと思います。なかなか個別に具体的なものを入れてしまうと、先ほど会長もおっしゃられていたようなところも懸念されるので、またどうしたらいいかは検討させていただきたいと思います。

3番の職員のユニバーサルデザインの意識の向上なんですけれども、確かに関わらない場合は全く分からないので、選択肢として選ばれることはないかなとは思いますが、例えば、話しているときに、前よりも職員の意識が上がっているというのを感じられたかどうかとか、対応しているときに、昔より、職員の障がいに対する理解が増えたとか、建物の段差とかに関する理解が増えているとか、そういったところにハード面でできていないところを、ソフト面で職員がしっかり先回りしてフォローできているとか、そういったところでもし感じられたら、選択肢にチェックしていただければという思いで作った選択肢でございます。

〈会長〉

ありがとうございます。私から補足というか、意見というか、させてもらいます。確かに問の12・13等は、ふんわりしていて何だかよく分からないというのは印象としてありますが、アンケートでやる内容の限界というか、こういうのは理解できない、あるいは知らないから丸をつけることもできないという人がいたら、それはそれが答えなのではないのかなと思います。つまりちゃんと評価してもらえていないという、そういう理解でもいいのかと思うところはございます。難しいですね、このアンケートというのは。

〈委員〉

区職員のお話は窓口の方たちのご案内の仕方とか、そういうところを聞いていらっしゃるといのがすごく分かりました。そこも読み取れるか、というところなんですけれども、難しいですよ、書き方が。きっと事例を載せてしまうと、すごくボリュームミーになってしまうというのもあると思いますので、もしかしたら、このアンケートの中身というよりは、別資料で実際の今の取組事例みたいなのがパラっと見えるようにしておくといいのかなと思います。本当に全く知らないというところを洗い出したいという目的でしたら、全然大丈夫だと思います。ありがとうございました。

〈委員〉

冒頭に会長が前回のアンケート調査と設問、選択肢が変わった部分について質問されたんですけれども、個人的にこのような形で、同じテーマで定点的にアンケートを行っていくのであれば、ある程度同じ設問、同じ選択肢を設定して、その定量的な変化によって評価していくということができると思うんですね。ただ、あまりその辺りが意識されていな

いのかなという気がしまして、例えば、平成28年の調査の4ページ目です。「ユニバーサルデザインについて、どの程度知っていますか」という設問で、「具体的な事例まで知っている」とか、「知らなかった」とかなんですが、今、計画しているアンケートの方は、「ユニバーサルデザインに関心がありますか」で、「非常に関心がある」、「少し関心がある」、「関心がない」、「分からない」、ということで、「知っていたか」ということと、「関心があるか」という、質問が変わってしまっているんですね。したがって、このこと、この結果というのは客観的な量として比較できないんですが、その辺りを少しそろえて、前回の調査から今回の調査にかけて、区民の方の意識とか評価がどのように変化しているのかということ把握してはいかがかなと今、色々な方がおっしゃられている議論を聞きながら感じておりました。

今、話題に上っている問11ですが、これは主観でしかないんですよ。10年前と比べて、あなたの生活の中でユニバーサルデザインの取組は進んでいると思いますかというのも聞くことがすごく難しい問いかけなんですが、あくまでも主観でしかなくて、でもこの主観を持っている方のプロフィールについては、割と本人の年齢とか、家族の状況ぐらい、あと地域しかプロフィールは聞いていなくて、もし主観を聞くのであれば、例えば、「働いている」か「通学している」か、それともずっと「自宅にいる」状況なのかとか、1週間の外出頻度とか、どのような仕事についているのかとか、もう少し回答者の背景、属性というものが分からないと、主観が読み取れないのではないかなというふうに思いながら聞いておりました。

そうした観点から、前回の調査との経年的な変化を把握するということは考えないのであれば、もう少し回答者の情報というものも、先ほど障がい属性という話もありましたが、「障がいがある」だけだと全然分からないですよ、どういう障がい。障がいによってもそうですし、個人によっても違いがあるわけなんです、個別差は置いておいたとしても、障がいごとの傾向というのがあると思うんです。あと65歳以上というのもちょっと気にかかっておまして、もちろん65歳以上は高齢者なんです、やはり色々な観点でフォローというか、環境的な整備等や支援が必要になってくるのは、どちらかという75歳以上の後期高齢者になってきますので、高齢者という存在をこの65歳以上で丸めてしまっているのかなという辺りも気になっています。

もう一つは、問13の13番目の選択肢、誰一人取り残さないという、この言葉はSDGsの目標の方から来ていると思うんですが、同じように大学の現場にいて、今、合理的配慮をこの4月から事業者は必ず行わなければいけないということになっていて、障がいのある学生に対する合理的配慮をすごく求められているんですね。何かそうした動きという

のは、このユニバーサルデザインの推進とも関わってきますので、障害者差別解消法の動きなんかを読み取れる、感じ取れるようなものが選択肢の中にもう少し位置づけられていてもよいのではないかなというふうに思いました。以上です。

〈会長〉

ありがとうございます。経年変化のことは、私、気がつきませんでした。では、事務局の方からお願いします。

〈事務局〉

ありがとうございます。経年はやはりこちらを意識しているところではありますので、先ほどの「どの程度知っていますか」というのは、問7のところで同じ設問を今回もつくらせていただいております。そういった定点観測のところは、おっしゃっていただいたとおり変えずやっていきたいと思っております。

問11の「～と思うか」という、主観を問う設問になっているというところは、確かに、どんな背景があって、どういう属性の方がそう思っているか、ということ把握するために、属性の設問を少し増やすところも考えていった方がいいかなと、今、ご意見をいただいて思っております。

ただ、先ほども申し上げたように、設問数が多くなり過ぎると、ご回答自体をしていただけないというジレンマもありますので、そういったところも含めて、どの程度増やすかは考えさせていただければと思います。

あと、年齢に関しましては、今回の調査では5歳刻みで設定させていただいて、75歳以上というくりでも比較できるようになっております。

また、合理的配慮、今年の4月から各企業とか民間団体も合理的配慮が義務になったというところは、やはり当課としても知っていただきたいところではありますので、選択肢をちょっと増やして入れさせていただいてもいいかなと個人的には今、思っております。ただ、今回のユニバーサルデザインの調査にどこまで入れ込むかというところは検討させていただければと思います。ありがとうございました。

〈会長〉

ありがとうございます。では、その辺ちょっと検討していただくということですが、もしよかったら委員と直接相談していただいたりするのもいいかなと思います。

それでは、また引き続きまして、ご意見があれば。

〈委員〉

私からは「そもそも」という意見になります。前回のアンケートのときに「全然知らなかった、初めて聞いた」という方と、「言葉だけは聞

いたことがあったという方」、合わせて70%ぐらいあったと思います。今現在、どれぐらいなのかなといいますと、実は先日、6月に区民検討会に出席させていただけたんですが、ユニバーサルデザインという言葉を知っている方は本当に少なかったです。私たちのグループはユニバーサルデザインをテーマに掲げたワークショップだったのですが、ユニバーサルデザインを分からない方、バリアフリーと一緒にいる方もいるので、「ユニバーサルデザインのアンケート」という、これだけできっと分からないのではないかと思います。一般の方が対象となったときに、せっかく3,000人近くの方にアンケートを出すのであれば、これを見て、ユニバーサルデザインとは一体何か、というのを分かっていたきたいなと思えました。ですので、このアンケートの中にユニバーサルデザインとはこういうものなんだというのをどこかに入れ込んでいただいて、3,000人のうちの50%ぐらいの方、全然知らない方にユニバーサルデザインがどんなものなのかを知っていただきたいなと強く思いました。

その区民検討会に出たときに、本当に残念な気持ちになってしまって、これだけユニバーサルデザインの会議に出ていて、皆さんと色々なことを検討してきたのに知らないんだというのがちょっと本当に残念だったんです。ですから、知らない方に伝えるためにも、この中にユニバーサルデザインという言葉の意味をぜひ入れていただきたいなという意見です。

〈会長〉

ありがとうございます。一応、この4ページの真ん中ぐらいにユニバーサルデザインとはという、正解じみたものは書いてあるんですが、これで分かるかなというところを含めてのご質問だと思います。

それから、今のユニバーサルデザインの認知度が少ないということで、お話を伺いましたが、私も今のお話を聞いて、愕然といたしました。これは感想ですが、失礼しました。

事務局の方、いかがでしょうか。

〈事務局〉

ご意見いただきありがとうございます。

実際に、本当にこの10年でどれぐらい認知が深まったかということも、このアンケート自体で知りたいところであって、その設問は同じ設問を残しているところです。おっしゃるとおり、せっかく3,000人にこれを配るので、これをきっかけに知っていただけるといような仕掛け、先ほど、他の委員から、最後に「まちのなかで気づくかな？」を載せるとかという話もあったと思うんですけども、そういった仕掛けも含めて、せっかく確かに3,000人へ送るので、見ていただいた方がユニバーサルデザインって何だろうというのを少しでも理解してもらえるき

っかけにできるように考えていきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

〈委員〉

ぜひ、よろしくお願いいたします。

〈会長〉

ありがとうございます。

それで、私が口を挟んで申し訳ないんですが、今の委員の意見を聞きながら思ったんですけれども、もしかしたら、このユニバーサルデザインに関するアンケートのお願いというのが区から来たときに、関心がないか、もしくは知らない人だと捨ててしまうのではないのかなと。

それで、ちょっと思いつきで申し訳ないんですが、タイトルを変えて、板橋区の福祉に関するアンケートとか、何か古くさいんですけれども、例えばそういうようなものにして、中身は実はこれと同じという、そういう方法もあり得るのではないかなと、先ほどの発言を聞きながら思ったところではございます。これに関してはまた後でご回答いただければ結構でございます。

〈委員〉

ありがとうございます。

外国人の立場からの意見と、あと情報共有があります。できるだけ簡潔にまとめます。まずは、以前、この委員会でやさしい日本語というのが話題になったと思うんですけれども、この表紙を見ただけで、ちょっと、おっ、と思いました。あまり慣れていない方にとっては簡単ではないのは四字熟語ですね、漢字が四つぐらい並ぶと、もうやさしくないと考えていただければいいと思います。それが一つ。

もう一つは、年号ですね。西暦と和暦の混在ですね。この資料4を見ると、2025、令和6、平成28、2035とか、こういうふうになると非常に分かりにくくなると思います。では、今から2035まで何年だとか、平成28年は何年前だとか、全く分からないのが正直なところです。法律とか条例では何かそういう決まりがあるのは承知していますけれども、こういう一般的な資料においては、ぜひ統一の方をよろしくお願いいたします。

もう一つ。次が情報共有ですけれども、今の職場ではよくSNSを使って発信しているんですけれども、ポーリングというのがあるんですね。簡単に言えば調査です。そこで簡単に色々聞けるんです。例えば、写真とか動画を上げて、そこにこういうものを見たことがありますかとか、こういうのをどこで見かけますかとかというのが簡単に聞けるんですね。それだと答えるのも簡単ですね。設問数も少ない簡単なもので、いろんな人から情報が集まると思います。

次は、これはちらっと聞いただけでちょっと詳しくないんですけど

も、アメリカのたしか公共整備、公共事業の方で使われているらしいんですけども、地図とつながっているアプリで、当時は何か道路の修理が必要だとかいう箇所を市民から上げてもらうというものなんですね。それはこういうところでも使えるんじゃないかと思います。不便を感じる場所はどこだというのを聞きすれば、もう本当に今のインターネットを見ていると、もうこんなに時間を割いてくれるのかという方がいるんですね、世の中に。もう徹底的に調査してくれる人がいると思いますので、ぜひお勧めです。

最後に、パソコンやスマートフォンでの回答を推奨するというのもいいと思いますが、スマホは使わないけれどもパソコンは使うという人はまあまあいると思います。パソコンでの回答の場合、URLを手打ちしなきゃいけないんですけども、10文字ぐらい以上になるとなかなか正しく打ってもらえないので、それを短縮するという手法もあります。URLがぎゅっと短くなるので、それができればネット回答が増えるんじゃないかと思います。以上です。

〈会長〉

ありがとうございます。私も知らないことがいっぱい出てきました。情報提供も含めてありがとうございます。

事務局の方からお願いします。

〈事務局〉

情報提供いただいてありがとうございます。

西暦・和暦が混在しているのは、確かに非常に分かりにくいというところはあろうかと思いますが、言葉遣いも漢字四つ以上というのもよく、おっしゃるとおりだなというふうには思うので、変えられるところはやはりちょっと変えていきたいと思います。

法律とかになると、ルールがあって統一できないところがあるかと思いますが、アンケートなので、そこは分かりやすさ重視で統一していきたいと思います。

いただいた情報に関してはちょっと後で調べさせていただいて、参考にさせていただければと思います。ありがとうございます。

〈会長〉

ありがとうございます。私からもぜひお願いします。四字熟語になると途端に分かりにくくなるというのは初めて知りましたが、言われてみれば全くそのとおりだなと。

ご協力のお願いのところの言葉も、せっくなのでもうちょっと練っていただけるといいかなと。結局、振り仮名を振っても意味が分からなければ分からないわけで、「現在策定準備中の」なんていうのは、日本人でも分からないかもしれないので、ちょっとこういうところを何か、恐らく区役所の中でちゃんとこういうのをやっているところがあるんじ

やないかなと思うので、そういうところとご相談するのもいいんじゃないかなと思いますので、もうちょっとこのお願い文、一般区民向けということなので今のご意見を基に練っていただくといいのかなと思います。

引き続き、ご意見いかがでしょうか。

〈委員〉

よろしく願いいたします。

私は意見が二つあるんですけども、もう皆さんがたくさん意見を出されているので、同じような意見になってしまうかもしれないんですけども、問11の「10年前と比べて、あなたの生活の中でユニバーサルデザインの取組は進んでいると思いますか」の回答で、「思う」とか「思わない」とかあるんですけど、「思う」とか「まあ思う」と回答された方が理由を答えるところは指示されているんだけど、「思わない」、「どちらともいえない」、「あまり思わない」を選んだ人が、どこが進んでいないのかということが、何を感じたのかということをやっぱり知りたいなと思ひまして。

先ほどから自由に書くところに対して、具体例を書いた方がいいんじゃないかという意見が出たと思うんですけど、「思わない」と回答した人に対しても、どこを「思わない」と思ったのかということをやちょっと書ける場所があったらいいんじゃないかなと思ひました。自由回答と言ってしまうと何でも書いてくださいになっていて、あえて何を書いていいか分からなかったりするので、思わなかった人に対して、どんな理由で思わなかったのか、どういう設問がいいのかという、具体的な言葉まではちょっと分からないんですけど、何か設問があると伝えやすいかなと感じました。

あともう一個は、アンケートとはちょっと関係ないんですが、私もまちを歩いていて、特にトイレとか、使えないトイレとかが結構あるので、それを作ったものに対してどこに意見を言っているかというのが結構困ったりしています。作ったところ、ビルの責任者とかそういうところに意見を言うのがいいんですけど、トイレができた経緯というのがあると思うし、私が使えなくても他の人が使えるんじゃないかと思うところもあって。だからもし区がそういう窓口を大きく開いてくだされば、そこに書き込むことができるんですね。

さっきSNSの話が出ていましたけど、何かいい方法で意見を吸い上げるようなところがあるといいなと思ひています。

以上です。ありがとうございました。

〈会長〉

今トイレのお話がありましたけれども、それはいわゆる民間の施設のトイレですか。

〈委員〉

はい。例えば、成増図書館が入っているビルの中に新しくできたトイレは、民間なんだけども、でも区立図書館も入っているところで、公共のものにも見えます。なので、私の中では民間なのか、行政なのかというのはちょっとはつきりしないんですけど、確かにおっしゃるとおり民間のものなのかもしれません。

〈会長〉

では、民間であるということも含めてのご発言のようですので、事務局の方からお願いします。

〈事務局〉

ご意見等ありがとうございます。先ほどの問11のところで、「思わない」という回答の理由が、特にその後を選択肢も設問もないというところ、ご意見を本当にありがとうございます。この問12の下にスペースがちょっと空いているかと思うので、例えばそこに「なぜ思わないですか」というような設問を入れられるか検討したいと思います。

また、トイレの件なんですけれども、民間のトイレだとなかなか難しいかなというところはあります。ただ、今のお話だとアリエスという図書館が入っている建物のトイレということですので、やはり区の施設ですと、トイレが使えなくてご不便があるというご意見をいただいたのは非常にありがたいので、区の施設であれば、担当の部署とかにも情報を共有させていただいて、今日こういう意見が出ましたというところも、しっかり伝えさせていただければと思います。

〈委員〉

補足していいですか。

〈会長〉

はい、どうぞ。

〈委員〉

誤解を受けないように補足したいんですけど、ここは2か所、同じビルに同じようなトイレができて、2か所が違う種類のトイレなんです。私としては、1か所はそれでもいいんだけど、もう1か所をスタンダードなトイレにしてくれていたら使えたのになという気持ちがありました。なので、どうしてそれを作ったのかということがすごく気になります。全部が悪かったわけではなくて、使える人が使うトイレがいいと思うので、2か所作るんだったらデザインを変えたものだったらよかったなというのが、今の気持ちです。以上です、ありがとうございました。

〈会長〉

せっかく作るんだったら、本当に多様な人が使えるように作ればよかったのになというようなことだと思いますが、要するにそういう意見をどういうところで挙げたらいいのかと、そういう話だと思います。

他の委員のご発言にもありましたように、何か色々と整備に問題があるところとか、あるいは今後整備してほしいところというのを、いちいち役所に来て話をしたりとか電話したりというのも大変なので、そういうのをちゃんと言えらるようなインフラというか、せっかくなのでICTを使うとかというのは、逆に区の仕事を減らすという意味でも効果があるのではないのかなと思います。これはもしかしたらこの協議会の中の情報に関する審議が今後あるんじゃないかなと思うので、そのときに深めていけばよいかと思います。

ちょっと間に私が口を挟みましてので、分からなくなってしまったかもしれないんですが、ただいまのことについてちょっと事務局から総括いただければと思います。

〈事務局〉

ありがとうございます。

やはりトイレが2か所あって同じ作りで、使える人は両方使えるけど、使えない人はどっちも使えないという状況があるというところは、課題だと思います。そういったところも含めて、いただいたご意見をちゃんと担当課の部署の方に話に行ければと思っております。貴重なご意見をありがとうございます。

あと、会長からおっしゃったアプリでとか、スマホで簡単に状況が報告できるというのは、先進的にやっている自治体とかもあろうかと思うので、そういったものについて、話を聞いたり等、今後進めていく必要はあるのかなとは思っております。まだちょっと区では取りかかっているかなと思いますので、そういった情報もちょっと調べていきたいと思っております。ありがとうございます。

〈会長〉

ありがとうございます。たしか、本当に地方都市で職員が本当にいないところほど、そういうのに関心を持ってやっているようでございますけれども、都会型には都会型のがきっとあるのかなと。また議論の機会があると思いますので、そのときにまたよろしく願います。ということ、それまでに下調べなどはぜひお願いしたいと思っております。

ちょっと実は時間が迫っているんですが、まだご意見があれば伺いたいと思っております。

〈委員〉

色々なご意見を伺って、なるほどと思うことが多々ありました。

私自身も東京都の5年に1回やっている聴覚障害者の実態調査を20年間やってまいりました。実態調査ですから過去と比較することで、質問内容をなかなか変えられないと、同じような質問でずっとやっております。それで、確かに違いがどう変わったかとか、把握ができますけれども、ではどうして変わったのかとか、これからどうすればいいのかと

いう辺りはなかなか出てこないんです。

意識調査ですから、意識がどう変わったのか把握は必要だと思いますけれども、これからのことを考えると私自身も問11のような、どうして変わったのかとか、これからどうすればいいのかという設問が参考になると思います。こういう設問が大切ではないかと思っております。

あまり広げると書きにくいという面もありますので、例えばICTなどを使って支援が増えたというようなそんなものを入れてもいいのではないかなと思っております。本区をどのように変えていけばいいのか、どう進めていけばいいのかという設問を参考にすることも大切なことだと思います。

あと、先ほどお話がありましたように、色々話を聞いてみると、ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いが分からない。ごちゃごちゃになっているということが多いですね、やはり。この説明、4ページの真ん中の説明を見ても、バリアフリーのことかなというふうに思う方も多いんじゃないかと思えます。この違いが分かるように、書き方の工夫が必要なのではないかと思います。

意見ですが、私個人はユニバーサルデザインが大切なこと、当事者の参画ということが鍵になると思っております。これからの進め方については、東京都で当事者の参画も進めていくパンフレットを作りました。区の方にも来ていると思えます。この問いの中に、当事者の参画が大事だということも入れてもいいのではないかと思います。

どこまで知りたい人がいるか分かりませんが、見方、考え、気づきのためにもそういうことを入れてもいいのではないかと思います。ぜひ工夫をお願いしたいと思えます。

〈会長〉

ありがとうございます。ちょっと申し訳ないんですが、続けてご発言いただけますでしょうか。

〈委員〉

私からは3点ほど意見があります。

一つは、やはりこういうアンケートでユニバーサルデザインを知る、初めて知るという方もたくさんいると思えます。そういう方、あるいは興味を持ってくれた方にすぐ区が、板橋区がこんなユニバーサルデザインの取組をしてきたんだというところが、すぐわかるような何かインターネット上のサイトなり、冊子なりというのが準備されていると、ああこんなことやっているのねというところで理解が深まったり、あるいは興味を持ってもらえるんじゃないでしょうか。すぐには対応は難しいかとは思いますが、ぜひご検討いただけたらなと思えます。

二つ目は、特に今回のアンケートで一番最後なんですけれども、自由にお書きくださいと書いてあるんですけれども、ちょっと自由に何を書

けばいいのかよく分からないなというふうにも見えます。例えば、私はこういうことに困っているからこうしてほしいとか、具体的に書いてもらえるのが一番実はありがたいことなんじゃないかなという気もします。何か良い質問の仕方があればいいなというふうに思います。要はどんどん書いてもらって、それを集めて、区民がどう考えているのかとかということとはとても大事な情報になるんじゃないかなと思います。

最後になりますが、実は私はふだん公共施設なんかのユニバーサルデザインのサインとか、設計とかの実務をやっています。こちらの区役所のサイン計画なんかも、もう10年ぐらい前になりますけれども、担当させていただきました。

私が興味があるのは、庁舎のユニバーサルデザインがうまくいっているのかなということです。さらにはもう10年たつと時代が変わっていきます。変わっていますから問題ないのかなとか、そういうことが気になります。

さらには、10年前一生懸命多くの人たちと関係者とユニバーサルデザインということで取り組んだんですけども、これが区にどうやって広がっていったのかなとか、まちなかにどう広がっていったのかなというの、すごく興味があるところです。

ユニバーサルデザインの施策の下支えになるのはやはりガイドラインだと思いますので、ユニバーサルデザインガイドラインをどうスパイラルアップしていくとか、よくしていくかというような視点なんかもあるといいなと思います。具体的にどこをどうするという話じゃないんですけど、そういうことも意識してもらって、ユニバーサルデザインが庁舎から多くの施設、さらには区のまちの隅々まで広がっていくんだというような、そんな施策に2035の計画がつながって広がっていけばいいなというふうに感じました。以上です。

〈会長〉

ありがとうございました。それでは、お二方分になります。事務局の方からコメントいただければと思います。

〈事務局〉

ありがとうございます。最初の方のご意見で、ICTの支援が増えたというところであったりとか、あとUDとバリアフリーがごっちゃになっている書き方が多いということで、書き方の工夫であったりとか、そちらの方も、もうちょっと練らせていただければと思います。ありがとうございます。

当事者の参画についても、やはり非常に大切だと思っていて、選択肢の中に多様な人の意見を取り入れる仕組みとあるんですけど、それだけだと当事者もというのがあんまり分かりづらいかもしれないので、その辺もどうしたらいいかなというところを考えていきたいと思いま

す。

次に、区の実行に飛べるようにというところですが、やっぱりUDを知ってほしいというところがあるので、何かしらちょっと仕掛けは考えていきたいと思っておりますし、自由欄も確かに何でもいいから書いてというだけだと、なかなか取っかかりがつかめないというところもあろうかと思うので、ちょっとここもどうやって書いたらいいかというのはもう少し考えてみたいと思います。

あと、最後に言われた10年たつての成果とかスパイラルアップというのは、アンケート調査もそうなんですけど、やはり今後の計画をつくるところで非常に重要なところになってくるかと思っております。またこのアンケート調査が終わった後も計画策定で皆様からご意見いただけるかと思っておりますので、ぜひそういったところも視点として入れながら、計画の方は新しくやっていければと思っております。ありがとうございます。

〈会長〉

ありがとうございました。ただいまの事務局からのご発言につきまして、お二方の委員からもし何か追加の質問等ありましたら。ありますか。じゃあ、どうぞ。

〈委員〉

時間ですので一つだけ。先ほどお話ししました東京都の実態調査、結果を見ますと、参考になるのは最後の自由意見なんですね。色々今後の取組について参考になることが多いです。どなたかがおっしゃっていましたように、自由意見を書きやすいように工夫することは大切かなと思います。

〈会長〉

とても大切なことだと思います。ありがとうございました。区の方でもぜひよろしく願いいたします。

では、よろしゅうございますか。大変活発に意見を交わすことができてよかったと思います。

では一旦ここで、今日の審議事項につきまして、終わらせていただきたいと思っております。

それでは次第3、その他に移ります。

### 3 その他

#### 板橋グリーンカレッジにおける普及啓発事業の実施について

(事務局から、資料6に基づいて説明)

〈会長〉

ありがとうございました。

それでは、議題はこれで締めてよろしいですか。

本日の議題は以上でございます。すごく活発な意見をいただきましたし

	<p>て、この調査項目のことから始まっていますが、今後のこの協議会で検討すべきことなども含めていろんな課題点が挙がってきたので、第1回の協議会としては誠によい会になったかなと思っております。皆さま、次回以降もぜひ活発なご意見をよろしく願いたします。本日の議題は以上でございます。</p> <p>では、他に事務局から連絡等ありましたらよろしく願いたします。</p> <p>〈事務局〉</p> <p>皆様、長い時間ありがとうございました。事務連絡になりますけれども、次回の協議会は令和7年1月16日の木曜日午後2時から、区役所の中を予定しております。また開催日が近くなりましたら、改めて通知と資料等をお送りしますので、よろしく願いたします。</p> <p>最後に、本当に皆様にご意見を多くいただいたので時間が来てしまったんですけれども、まだご意見を言いたいということがございましたら、8月8日（木）までにメール等で事務局にご意見をいただければと思います。ぜひ、まだ言い足りないこと、こういうふうにした方がいいというところがありましたら、ご意見いただければと思います。</p> <p>今後とも、板橋区のユニバーサルデザインの推進に関しまして、より一層お力添えをいただければと思います。</p> <p>事務局からは以上でございます。</p> <p>〈会長〉</p> <p>では、これをもちまして閉会といたします。本日はありがとうございました。2年間、よろしく願いたします。</p>
<p><b>所管課</b></p>	<p>福祉部障がい政策課ユニバーサルデザイン推進係</p> <p>(電話：3579-2252)</p>